

530

か便通あり、併も腹部が冷へ若干の苦痛を感じる。
ベッドに横臥してゐると気分が直い。今日は朝食次
外は昼夜両食ともに佐々木浩作先生の厚意により、
ブレッドとチーズ、ミルク等を運んで貰ひ攝つた。

三月十日(水)

崎村先生の報告に依ると、昨日インター総監督
の一將軍が巡視に来ると云ふので、兵連は例の如く
キャンパスを下検分に行ルカイ。吾が崎村バックス
長もたつた一人で忠実に立ち廻はつてゐるのを見
受けたが笑止にも亦気の毒でもらつた。右の將軍
と代表者との会見が予定されて居るので、要亦或は
領内事項と豫め幹事を提出されたいの事に付、
知人向きの report diet を要求して置いた。

午後七時、六分館内で大川先生の法講話が
催されるが今日は最も碎けたお話で、善心、先
心、洋心に就き有益なものであつた。

風邪の爲め一日臥床、茲一年来初めての感
冒である、大群を取つてゐる。

三月十一日(金)

昨日、軍守司から、今冬必要の薪の準備の爲め
木材を切り倒し、其れをストーブ用に整理する為
役につき、右はインターの使用すべきものとし
は、各々の中から人員を出働せしめ仕事に

新
労
役
問
題

従事すべきものにて、一エリアから毎日廿四名を出して就労すべき旨を命じて来り。此の労働は其の性質上相対過激なものと考えられ、先勤の多い者ら *internes* には果して堪へ得るやかの問題化されると共に、所謂 *class 2* に属する義務労働の労役と解し得るものから。場所は *internment camp* から約七哩の遠隔地だといふから、労務性質の解釋上大に疑義がある。依って大隊長会議では一應之れが就労に附し条件することになり、代表者は其旨を先方に通達すべく、ウェーバー大佐に会見を求めた。先方の大佐は日本人代表を起へるや否や、問題の就労事項は全見の要を認めると突っぱねた。乃ち再度帰還の上、会議を開き、大労役問題は、スペインに代表者及び *Provost Marshall* 代表を招致或は其れを通じ、説明及び解釋を求め解決する事に決定し、其の期間を十日とし、其間は無条件の斯協調するの意味を以て、各自必働する最も適宜の手段と衆議一決。依って之れが賛否を各バラツクに向ひ、一 *barrack* を一票として、今日初五時迄に幹事会に通告する事になった。此のバラツクでは色々議論があつたが、庫中では先き *internes* 側にて之れを拒否する場合に、健康診断終了の上、就

532

役と奨励の旨申越したところから、その功賛
或するやにまつ。

要するに、この協定の條項に基くと、前記の労役
は Camp の class に入すべきものと解釋すべき
だが、中キャンプ司令官には條約文と解釋の能力
あるものと思はれ、右労役対象の木材は internes
の使用品である。インターの義務労役に加はるものと
曲解になると断定できる。何れにしても相方は実弾
を込めて大に段を次で、つかうて来るのだから戦
時には言はるものらしい。

三月十三日(土)

今朝、長松大隊長の報告によくと、労役の件は
43対32の差で、十日間就働賛成が大数と
得たのである。

在野の村の internes も年々から今般複雑極
の労役に服せられてゐるや否やを知る必要からう。

Family Center の移動命令に接し、石場
知のね、あかお会にけの集訓会と接し、今は
はあか会の KP 為着にいつの間停上、数種の市
場野菜を整へるやあかおの好都合にいつ、ビー
と振き、梅干の握り飯と初め、フーヨーハー、ケーキ、
ピツクル等々で気分を上げ且つ石場の健康
を祝し。

一昨日の来訪の予定にいつし將軍と云ふのは